

# 介護療養型医療施設における個室ユニット化が終末期ケアに及ぼす影響

日本建築学会計画系論文集/ No. 641/ pp. 1515-1522/ 2009年7月

正会員 孔 相 権 君

終末期を介護療養型医療施設で迎えた高齢者を看取った御遺族に対して、アンケート調査、インタビュー調査を果敢に行い、貴重な声を集め、今後の介護療養型医療施設の在り方に対する重要な知見を多く得た論文である。

調査方法も御遺族に直接インタビューするという極めて困難な方法を用い、これを成功させているが、業績説明書にあるように、著者と家族会との深い信頼関係を抜きにしては、こういった方法はまず不可能であったであろう。

終末期は特に個室が望まれる、しかし個室が「死に部屋」と思われることは避けねばならず、そのためには生活期からの居室の継続的な個室化は重要である、高度な医療を終末期に行うことは「介護療養型医療施設」では難しい、多様な選択肢を用意する必要がある、共用空間の利用の重要性など、本研究で得られた知見は具体的で有用であり多岐に渡っており、奨励賞にふさわしいといえる。